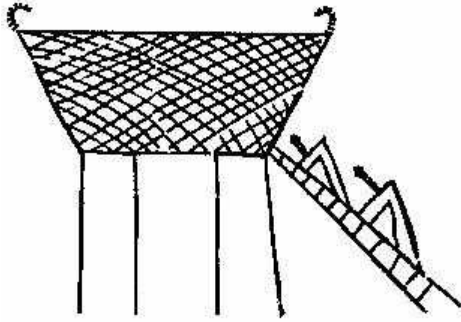


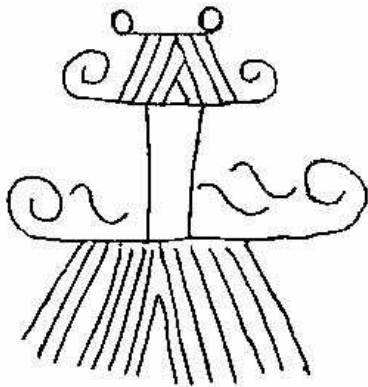
かいが
絵画

がえがかれた土器をさがしてみよう！（第1展示室）



左の絵画にえがかれた^{たてもの}建物を何といいますか？

この建物の中には何を入っていたと思いますか？



左の絵画は何をえがいたものでしょうか？

この^{かいが}絵画がえがかれた^{どき}土器は、奈良県の何という^{いせき}遺跡で見つかりましたか？

今から1700年ぐらい前には「古墳」と呼ばれる大きな墓がつくられるようになり、これ以降、土器を作る新たな技術が大陸から伝えられました。

すえき はじき
須恵器と土師器

（第2展示室・第3展示室） 須恵器と土師器とを比べてみよう！

須恵器

- () 色のものが多い。
- それまでの土器よりもかたくて、水もれしにくい。
- 作り方は () 半島から来た「渡来人」によって伝えられた。

土師器

- () 色のものが多い。
- (縄文 ・ 弥生) 土器ににている。（←どちらかを○で囲もう）

☆土器についてもっと知りたい人は「映像（ビデオ）ライブラリー」にも行ってみよう！

「分野」 → 「古代の技術」 → 「古代の土器」の順番に画面にタッチ

せっき 石器について調べよう

「石器」は、石を割ったり、みがいたりして作った道具で、使う目的によってたくさんの種類があります。人間が石器を作るようになったのは200万年以上も前ともいわれ、原始時代の人々の生活にとって、なくてはならない大切な道具でした。

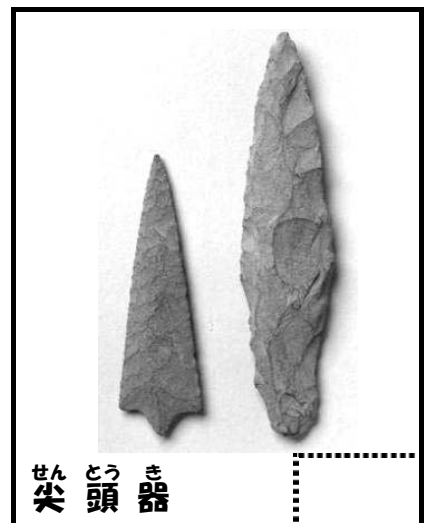
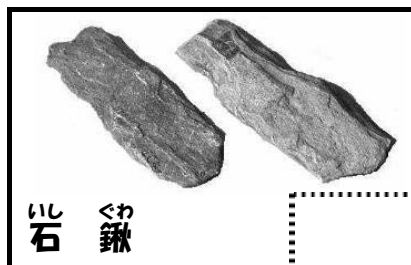
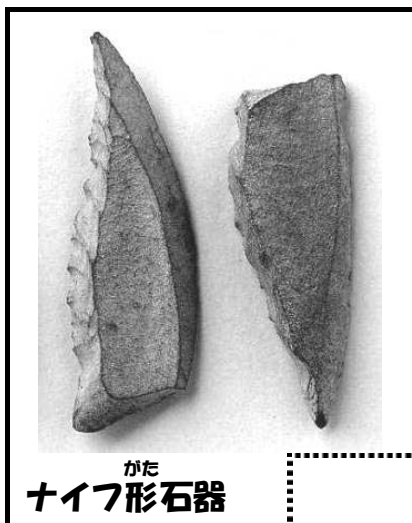
石器について、次の問題に挑戦しよう！

問題1 奈良県で発見された石器で一番古いものは、今から何年ぐらい前のものですか？

問題2 かたくて、するどい割れ方をするので、石器の原石として利用された、香芝市の二上山でとれる石を何と言いますか？

問題3 石では作れない「釣針」などは、何で作ったのでしょうか？

次の石器を「第1展示室」の中でさがして、見つけたものには○を書きましょう。



次の石器はそれぞれ何に使ったのか、どのように使ったのかを考えてみよう。

石 器	何に使ったのか・どのように使ったのか
<p>せき ぞく 石 鎌</p> 	
<p>いしざら 石皿と すりいし 磨石</p> 	<p>[ヒント] 石皿の真ん中のくぼんだところに何がある？</p>
<p>ぎよぶつ 御物石器</p> 	<p>※実は、この石器は学者にとってもまだ10%の道具です。 みなさんで自由に考えてみて下さい。</p>
<p>いしほうちょう 石包丁</p> 	<p>[ヒント] 2つの穴(あな)に、ひもを通して使いました。</p>

<p>はっ てん 発 展</p>	<p>現在でも使っている「石で作った道具」にはどんなものがあるでしょうか？</p>
----------------------	---

☆石器についてもっと知りたい人は「映像 (ビデオ) ライブラリー」にも行ってみよう！

「時代」 → 「旧石器・縄文・弥生時代」 → 「石器時代の天和」の順番に画面にタッチ

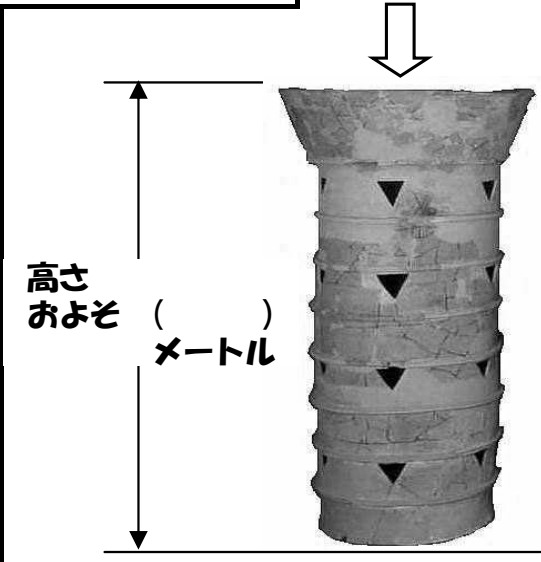
「はにわ」について調べよう

「はにわ」は、ねん土を焼いて作った土器で、古墳（豪族の大きな墓）の上にならべられました。「はにわ」には大きく分けて、円い筒のような形をしたもの（円筒はにわ）と、人間・動物・家・さまざまな道具などの形をしたもの（形象はにわ）の2つの種類があります。

えんとう 円筒はにわ

この博物館にある日本最大の「円筒はにわ」

今からおよそ1600年前のものです



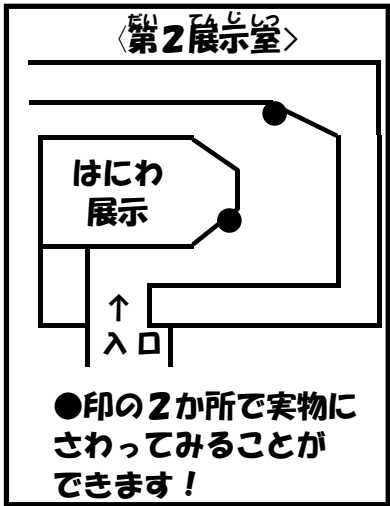
(桜井市「メスリ山古墳」出土)

この「円筒はにわ」は何という古墳で見つかりましたか？

どうしてこんな大きなものをつくったと思いますか？

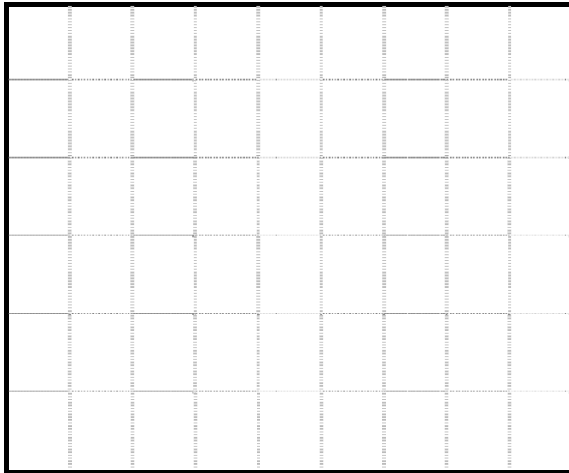
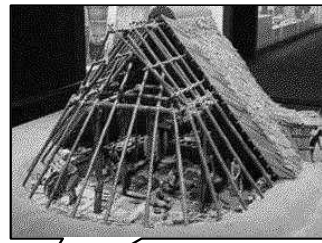
「円筒はにわ」にさわってみよう！

あなたがさわったのは、およそ1500年前の「円筒はにわ」のかけらです。さわってみた感想を書きましょう。



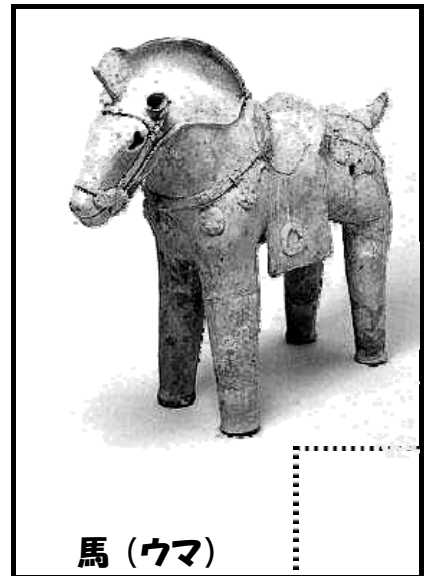
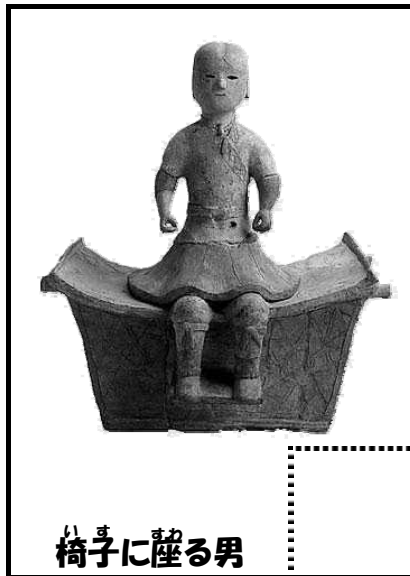
けいしょう
形象はにわ

いえがた
 「家形はにわ」をひとつ選んで、スケッチしてみよう。



「たてあな住居」と比べてみて、どんなところがちがっていますか？

次の「形象はにわ」を「第2展示室」で探して、見つけたものには○を書きましょう。



さまざまな「形象はにわ」からわかる、当時のようすをまとめてみよう！

☆ 「はにわ」についてもっと知りたい人は「映像 (ビデオ) ライブラリー」にも行ってみよう！




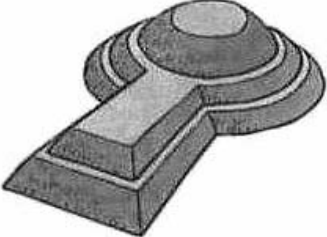
「時代」 → 「古墳時代」 → 「はにわの動物たち」の順番に画面にタッチ

こふん しら
「古墳」について調べよう

「古墳」は、3世紀の初めごろから、各地の王や豪族をほうむるためにつくられた墓です。ほとんどの古墳は、土をもったりしてつくった小山のような「墳丘」をもち、当時の王や豪族は、大きな「古墳」をつくることによって力の大きさを示したと考えられています。

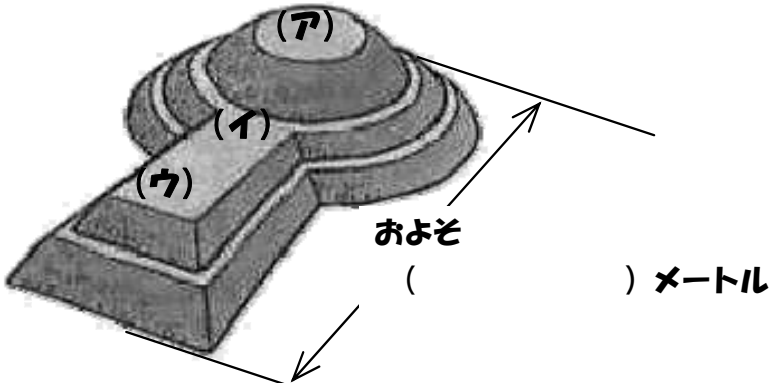
しゅるい
古墳の種類

古墳は、「墳丘」の形によってさまざまな種類があります。次の古墳はそれぞれ何とよばれているでしょうか？

			
		じょうえん か ほうふん 上円下方墳	

なかやまおおつか てんりし もけい こた
「中山大塚古墳」(天理市)の模型を見て、答えよう

王や豪族は古墳のどこにほうむられるのが普通だったでしょうか？
 (記号で答えましょう)



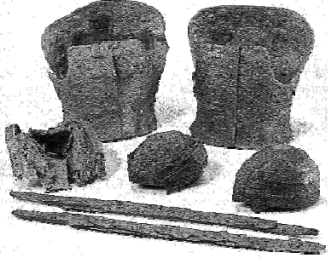


王や豪族がほうむられている部屋は何でつくられていますか？

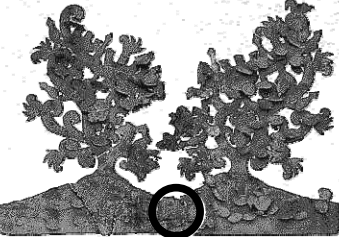
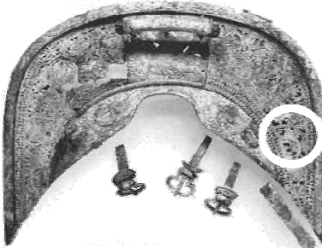
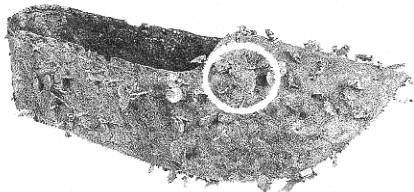
古墳におさめられたもの

古墳の石室や棺には、さまざまな品物がおさめられました。その品物から、王や豪族の力の強さや大陸とのつながりもわかります。

① 次のものを「第2展示室」で探し出して、それぞれの問題に答えよう。

<p>しゃりんせき 車輪石</p>  <p>これは何でしょう？</p> <p>()</p>	<p>めいしょう 名称は？ ()</p> <p>どんな色のものがあつた？</p> <p>()</p>
<p>どうきょう ないこう かもんきょう 銅鏡 (内行花文鏡)</p>  <p>古墳によっては30枚もの鏡がうめられていました。どうして鏡をおさめたのでしょうか？</p> <p>()</p>	<p>かっちゅう 甲冑と刀</p>  <p>これらの武器は何で作られていますか？</p> <p>()</p>

② 「藤ノ木古墳」 (斑鳩町) におさめられていたものを観察してみよう。

<p>ふじのき 藤ノ木古墳</p>  <p>こんどうせい 金銅製 ()</p>	<p>いかるが 斑鳩町</p>  <p>() 金具 (後輪) しずわ</p>	<p>かんさつ 観察</p>  <p>こんどうせい 金銅製 ()</p> <p>ふくげんひん ※復元品が正面入り口にあるよ</p>
<p>○ の部分には、それぞれ動物がデザインされています。何がいますか？</p>		
<p>()</p>	<p>()</p>	<p>()</p>

☆古墳についてもっと知りたい人は「映像 (ビデオ) ライブラリー」にも行ってみよう!

「時代」 → 「古墳時代」 → 「古墳の形態」の順番に画面にタッチ

「分野」 → 「服装とアクセサリ」 → 「玉はよみがえる」の順番に画面にタッチ

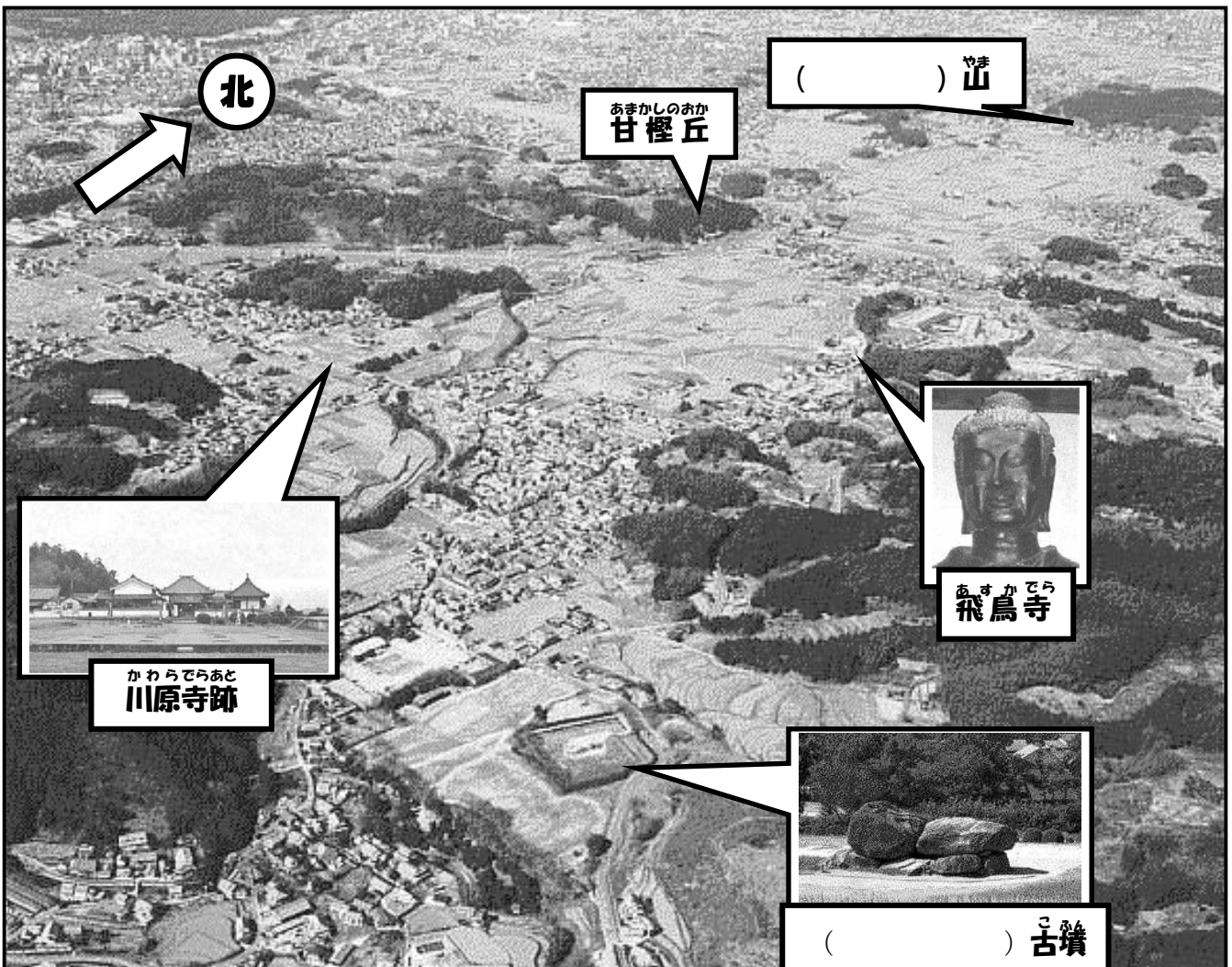
「発掘調査」 → 「古墳時代」 → 「藤ノ木古墳の開棺調査速報」の順番に画面にタッチ

あすかきょうせき しら
「飛鳥京跡」 について調べよう

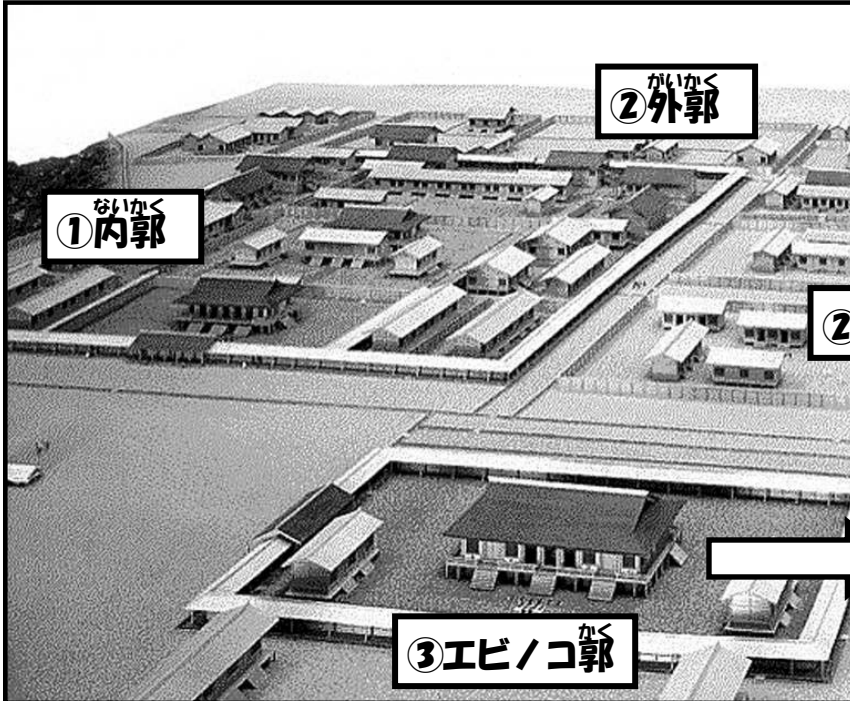
あすか かくやま
 飛鳥は香久山（香具山）の南、飛鳥川東岸の東西0.5km、南北1.0kmというせ
 まい地域です。「日本書紀」によると、592年に推古天皇が飛鳥（豊満宮）で位につ
 き、それからおよそ100年間にわたって宮都（天皇の住まい、政治の中心）はほぼこの飛
 鳥におかれ、天皇を中心とした国づくりが進められました。

下の航空写真は、飛鳥の地を南東上空からさつ影したものです。

- ① 「飛鳥京跡」の位置を で囲んでみましょう。
- ② 山の名前と古墳の名前を () に書きましょう。



第3展示室にある「飛鳥の宮」の模型は、673年に位についた天武天皇の「飛鳥浄御原宮」という宮殿を、これまでの発掘調査の結果をもとに復元したものです。



※「郭」とは、壁などで囲まれた場所のことです。



それぞれの「郭」を①～③の番号で答えましょう

- 天皇が国の儀式を行う→ ()
- 天皇が暮らしている→ ()
- 役所の建物が並んでいる→ ()

[ヒント]

タッチパネル⑥

「模型を見る」で調べてみよう

模型をよく見て、気がついたことをまとめてみましょう

☆飛鳥京跡についてもっと知りたい人は「映像 (ビデオ) ライブラリー」にも行ってみよう!

「分野」→「すまい・都市」→「宮と京 (1)」の順番に画面にタッチ

「時代」→「飛鳥時代」→「復元・飛鳥の宮」か「復元・エビ/コ郭」の順番に画面にタッチ

「分野」→「すまい・都市」→「飛鳥の宮復元制信録」か「エビ/コ大宮復元制信録」の順番に画面にタッチ

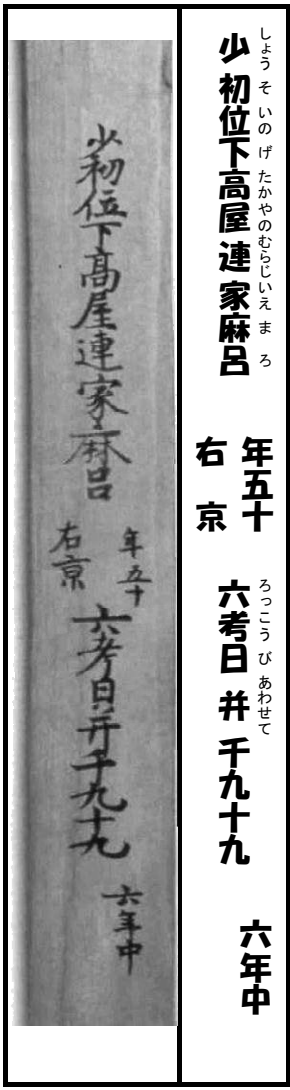
もっかん きぞく やくにん しら
「木簡」から貴族や役人の生活を調べよう

すみ
 墨で書かれた木の切れはしのことを「木簡」といいます。奈良時代のころまでは、紙
 き ちょうひん だいようひん
 は貴重品でしたので、このように木の切れはしが紙の代用品として使われており、私た
 ちとうじ
 ちに当時のようすを伝えてくれています。

(1) さだいじん ざうり ちい ながやおう
 左大臣（現在の総理大臣にあたる地位）だった長屋王の家の
 あとからはくつ
 発掘された「木簡」から、長屋王が食べていたものを
 調べてみましょう。

(2) へいじょうきょう うきょう たかやのむらじいえ まろ
 右の「木簡」は平城京「右京」に暮らしていた高屋連家麻呂
 という下級役人（「少初位下」というのは役人の中で最も下の
 位です）の6年間の働きぶりについて書かれた記録です。

- ◇この「木簡」を見つけましたか？ (はい ・ いいえ)
- ◇家麻呂は何歳ですか？ 歳
- ◇家麻呂は6年間で何日働きましたか？ 日
- ◇家麻呂は1年平均で何日働きましたか？ 日
- ◇家麻呂の仕事ぶりはどのように評価されていますか？



(3) 都の役人は、筆や小刀を使って紙や「木簡」に記録をつけていたことから、「刀筆の
 束」とも呼ばれていました。小刀は何のために必要だったと思いますか？